

CONTENTS

第1章 点検・整備の必要性

クルマの安全に点検・整備が不可欠な理由	1
点検・整備を怠ることによる故障・不具合事例	2

第2章 日常点検を実施しよう！

日常点検のチェック箇所	4
ハイブリッド車・EV車の触れてはいけない部品例	13
日常点検チェックシート	14

第3章 定期点検を実施しよう！

故障予防のために定期的な点検・整備（定期点検）のすすめ	16
定期点検とは	18
最近のクルマの点検・整備事情	20
定期点検Q&A	22
2年定期点検用点検整備記録簿（例）	24

第4章 クルマのトラブル

メーターパネル（計器）からのシグナル（代表例）	26
トラブル対処法	28

第5章 ドライバー情報

知っておきたいクルマの安全対策	36
災害発生時の対処法	37
ドライバーが地球のためにできること	38
違法行為となるクルマの不正改造	39
全国自動車整備相談所一覧	40

※本ハンドブックは、基本的に 自家用乗用車を対象として、編集したものです。
また、掲載している内容は、令和7年7月現在のものとなります。
ハンドブック内に掲載のQRコードは（株）デンソーウェブの登録商標です。



クルマの安全に点検・整備が不可欠な理由

道路運送車両法において、自動車の保守管理責任はユーザー自身にあること（自己管理責任）が定められており、自動車ユーザーには、日常点検と定期点検が義務付けられています。ユーザーは日常点検を含めた定期的な点検・整備を怠ることなく、自動車の安全の確保に努めなければならないのです。

自家用乗用車の使用者が保守管理しなければならない点検の種類

日常点検

走行距離、運行時の状態から判断した適切な時期に目視などによりブレーキ液の量・エンジンオイルの量をはじめとする本書掲載の15項目の点検を行います。

定期点検

定期点検は、自動車の故障を未然に防ぎ、その性能維持を図るために行う点検です。自家用乗用車の定期点検には、1年点検（車検と車検の間の年）と2年点検（車検時）があります。

車検と定期点検の違いって何ですか？

最も大きな違いは車検が基準への適合性を見るのに対し、定期点検は安全性を確保するために行います。それぞれの特徴は次の通りとなります。

車検

一般的に自動車検査証の有効期限が満了した後も引き続きその自動車を使用するときに受ける検査（継続検査）を指し、その時点でのクルマの安全面や公害防止面が基準に適合しているかどうかを検査するものです。

定期点検

クルマのトラブル防止や性能の維持を図るため国が定める基準に沿って点検することで、不具合箇所や部品の摩耗などを発見し、必要に応じて部品交換・修理・調整等を行います。高い安全性を確保するために必要な整備です。

点検実施スケジュール（自家用乗用車）

● 1年定期点検 ○ 車検（継続検査）+ 2年定期点検



トラブルのない快適なカーライフを楽しむためには、定期点検をきちんと受けて、安全性を確認し、不具合箇所を整備しておくことが大切です。定期点検の実施の有無や次回の定期点検の実施時期は、車両前面ガラスのステッカーで確認できます。



点検整備済み
ステッカーの詳細は
P22 参照

点検・整備を怠ることによる故障・不具合事例

クルマの部品は、気付かないうちに摩耗・劣化しています。そうした状態で使用し続けると、重度の故障による多額の出費、さらには交通事故といったリスクを背負うことになります。“さまざまなリスクを回避する有効な手段”として、日頃から点検・整備を心がけましょう。

搭乗者の命に係わるリスク

燃料漏れによる車両火災

燃料ホース等に亀裂が生じることで燃料漏れを引き起こすことがあります。漏れた燃料がエンジンなどの熱源により着火し車両火災に至ってしまった場合、運転者だけでなく同乗者等も危険にさらすことになります。

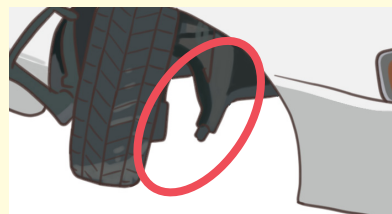


亀裂から燃料漏れをおこした燃料ホース

他人の命に係わるリスク

装置破損による車輪操作不能

車輪と車体をつなぐ装置が破損することで、ハンドル操作および自走ができなくなるケースがあります。その場合、歩行者や他の交通なども危険にさらすことになります。



前輪と車体をつなぐ破損した装置

多大な出費のリスク

オーバーヒートによる路上故障

冷却不良を起こしエンジンがオーバーヒートしてしまった場合、多大な出費を要する可能性はもちろん、大事な予定に支障を及ぼすだけではなく、交通渋滞の原因になり、他人にも迷惑をかけることになります。

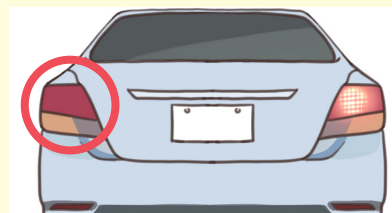


冷却不良によるオーバーヒート

他の車を巻き込むリスク

整備不良が原因となる交通事故

ブレーキランプ切れが原因で後続車と追突事故を起こしてしまうなど、適切な点検整備を怠ると単独事故だけではなく他の車を巻き込んだ事故を発生させてしまう可能性があります。



電球が切れたため点灯しないブレーキランプ

点検・整備をしっかりと行うことで、さまざまなリスクを回避することができるのです。



ユーザー本人が手軽にできる点検・整備

クルマの点検というと整備工場に依頼するものを想像しますが、ユーザー本人が手軽に行える点検もあります。手順さえ覚えれば誰でも簡単に実施でき、その上大きな効果が得られます。

P04 ~ P15 第2章 日常点検を実施しよう！
🔧 check !

専門的な知識・技術が必要な点検・整備

整備工場に依頼する点検・整備というと車検だけと思い込んでいる方が多いようです。でも、車検と車検の間にも、定期点検と呼ばれる点検・整備があるのです。人間の健康診断は年1回が一般的ですが、クルマについても年1回（自家用乗用車）の健康診断が必要です。

P16 ~ P25 第3章 定期点検を実施しよう！
🔧 check !

日常点検のチェック箇所

日常点検は、走行距離や運転時の状態などから判断して実施するもので、ユーザー本人が比較的容易に行うことができる点検内容なので、確実に実施しましょう。目安としては1ヵ月に一度、長距離走行前や洗車時などに行うのが一般的ですが、日頃のちょっとした機会に注意深くクルマを観察することで、不具合箇所を早期に発見することができるでしょう。



聞く、見る、触れる。

日常の心構えが不具合早期発見のポイント



聞

セル・モーター音、アイドリング音

クルマの異常はエンジン始動時のセル・モーター音やアイドリング音でも判断できます。特にセル・モーター音はバッテリー不具合を知るバロメーター。「いつもと違う?」と感じたら要注意です。

見

タイヤ、ランプ類

駐車した際に、ショーウィンドウのガラスへの映り込みなどを利用して自分のクルマのランプ類をチェックすることもできます。



触

アクセル、ブレーキ

アクセルやブレーキの踏み心地でクルマの異常を判断できます。買い物で街中を走るときなど、普段から正常時の操作感覚を意識する習慣をつけましょう。

1回の点検は5～10分程度。効率よく行えば、決して面倒ではないんだよ。
なお 1～15 は日常点検の点検手順を示しています。

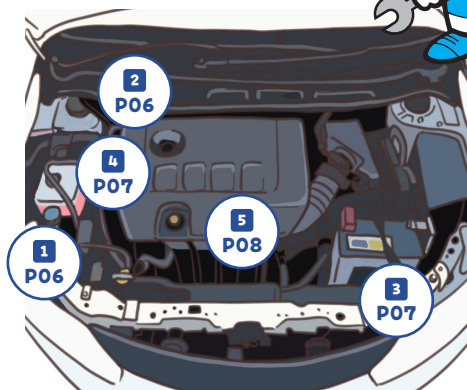


日常点検の流れ

STEP 1

エンジンルームをのぞいてここを点検

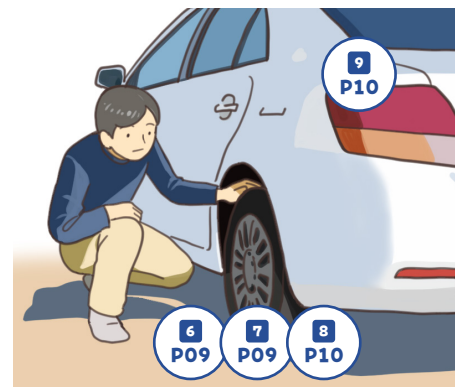
- 1 ウインド・ウォッシャ液の量
- 2 ブレーキ液の量
- 3 バッテリー液の量
- 4 冷却水の量
- 5 エンジンオイルの量



STEP 2

クルマのまわりを回ってここを点検

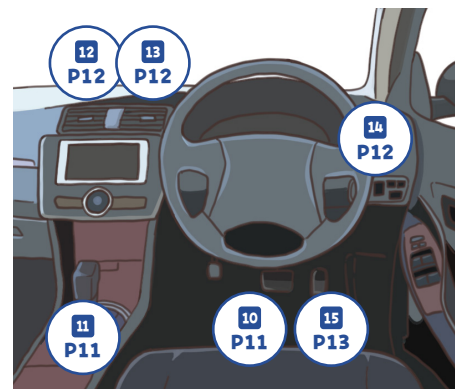
- 6 タイヤの空気圧
- 7 タイヤの亀裂、損傷および異状な摩耗
- 8 タイヤの溝の深さ
- 9 ランプ類の点灯、点滅およびレンズの汚れ、損傷



STEP 3

運転席に座ってここを点検

- 10 ブレーキ・ペダルの踏みしろおよびブレーキの効き
- 11 パーキング・ブレーキ・レバーの引きしろ
- 12 ウインド・ウォッシャの噴射状態
- 13 ワイパの拭き取りの状態
- 14 エンジンのかかり具合および異音
- 15 エンジンの低速および加速の状態



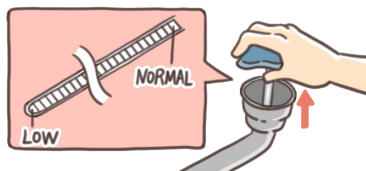
日常点検のチェック箇所

STEP1 エンジンルームをのぞいてここを点検

1 ウインド・ウォッシャ液の量

ウインド・ウォッシャ液の量が十分あるかを点検します。不足時は専用液を補充しましょう。

ウインド・ウォッシャ液は冬季の凍結を防止するため専用液を使用する必要があるため、行きつけの整備工場に相談しましょう。



！トラブル例

- いざというときにフロントガラスの汚れを落とせずに、前が見えなくなる
※ウォッシャ液が、カラの状態だとウォッシャ・スイッチを入れたら、モーターが故障することがあります。

2 ブレーキ液の量

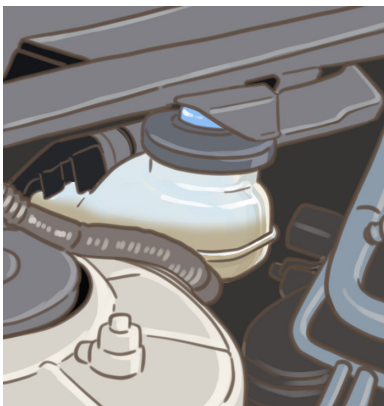
ブレーキ・リザーバ・タンク内の液量が規定の範囲（MAXとMINの間）にあるかを点検します。

定期的な交換の必要性がありますので、定期点検等の際に整備工場で交換しましょう。

交換の必要性は
P16 参照



ブレーキ・リザーバ・タンク



！トラブル例

- ブレーキ液の量が減ると、最悪の場合ブレーキが効かなくなり、追突事故の原因になる
※ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキシステムからの液漏れやブレーキパッド等の摩耗が考えられます。整備工場へ依頼して原因をつきとめましょう。

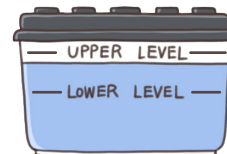
STEP1のエンジンルームの点検は、エンジンが熱をもっている恐れがあるので、走行前もしくは走行後しばらく経ってから行うようにしましょう。



3 バッテリー液の量

バッテリーの液量が規定の範囲（UPPERとLOWERの間）にあるかを車両を揺らすなどして点検します。

バッテリーには寿命があるので、定期点検の機会等を利用して早めに交換しましょう。



バッテリー液は腐食性があるので、体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。

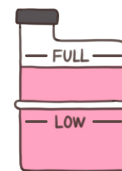
！トラブル例

- バッテリーあがり（エンジン始動不能） ● バッテリーの破裂
※メンテナンスフリーバッテリー（液の補充及び点検ができないタイプ）も、同様に寿命があります。

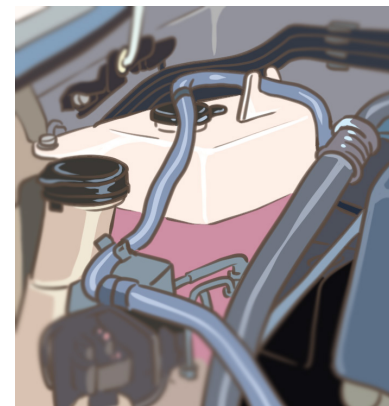
4 冷却水の量

ラジエータ・リザーバ・タンク内の冷却水の量が規定の範囲（FULLとLOWの間）にあるかを点検します。

定期的な交換の必要性がありますので、定期点検等の際に整備工場で交換しましょう。



ラジエータ・リザーバ・タンク



！トラブル例

- 冷却水の量が減るとエンジンがオーバーヒートを起こし、最悪の場合エンジン交換が必要になる
※冷却水の量が著しく減少しているときは、ラジエータ、ラジエータ・ホースなどから冷却水が漏れているおそれがあります。

日常点検のチェック箇所

STEP1 エンジンルームをのぞいてここを点検

5 エンジン・オイルの量

エンジン・オイルの量がオイル・レベル・ゲージにより示された範囲内にあるかを点検します。

エンジン・オイルとオイル・フィルタは、定期的な交換の必要性がありますので、定期点検等の際に整備工場で交換しましょう。

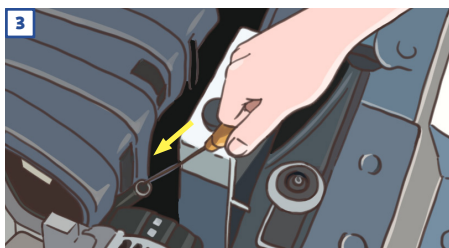
交換の必要性は
P17 参照



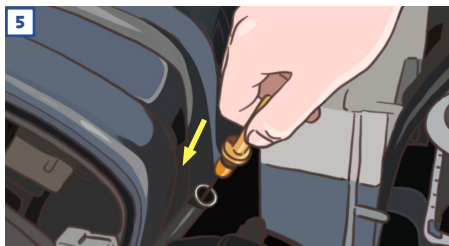
平らな場所でエンジンを止めた状態で、オイル・レベル・ゲージを抜き取ります。



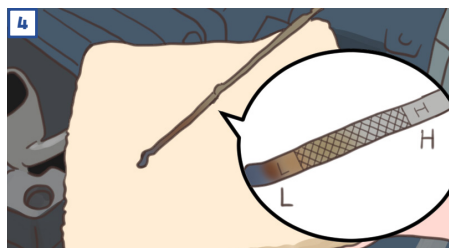
オイル・レベル・ゲージに付着しているオイルを拭き取ります。



オイル・レベル・ゲージをいっばいに差し込みます。



オイル・レベル・ゲージを元の位置に差し込みます。



もう一度抜いてオイルの量がオイル・レベル・ゲージの規定の範囲内(HとLの間)にあるかを確認します。

！トラブル例

- エンジン・オイルの量が足りない場合、エンジン内部の破損を引き起こす

※オートマチック・トランスミッションのオイル・レベル・ゲージと間違えないようにしましょう。

※エンジンルームにタオル等の可燃物を置き忘れないよう注意しましょう。エンジンの熱でタオルなどが発火して車両火災が起こる場合があります。

STEP2ではタイヤやランプ類の点検を行います。タイヤの空気圧は、タイヤ空気圧監視装置が装着されている自動車では、メーターパネル等に表示される空気圧表示にて確認することもできるよ。

STEP2 クルマのまわりを回ってここを点検

6 タイヤの空気圧

タイヤの接地部のたわみの状態により、空気圧が不足していないかを点検します。なお、タイヤ空気圧ゲージがあれば、より正確に点検できます。

タイヤ空気圧ゲージが無い場合や自分でチェックすることが難しい場合は、行きつけの整備工場に気軽にチェックをお願いします。

タイヤ空気圧 (kPa) (kg/cm²)

タイヤサイズ	前輪	後輪
185/65R15 VXS	250 (2.5)	230 (2.3)
応急用タイヤ T125/70D15	420 (4.2)	420 (4.2)

応急用タイヤを装着した場合は、100km/h以下で走行して下さい。使用法は、取扱い説明書をご覧ください。

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの端やセンターピラーに貼付されているラベルに表示されています。



タイヤ空気圧ゲージ

！トラブル例

- 空気圧不足による燃費悪化
- 空気圧が不適正な場合、走行安定性が悪化
- 空気圧不足により、ハンドル操作が重くなる

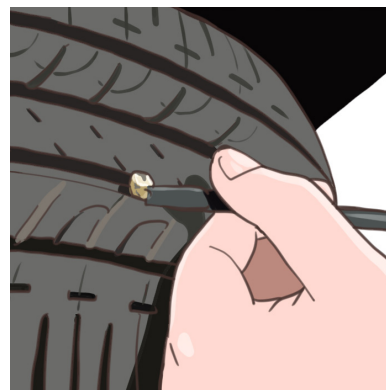
※スペア・タイヤの空気圧も点検しましょう。

7 タイヤの亀裂、損傷および異状な摩耗

1 著しい亀裂や損傷がないかをタイヤの全周にわたって点検します。また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

2 タイヤの接地面の片側だけや一部だけが異状に摩耗していないかを点検します。

クルマの下廻りから見ないと全周にわたってチェックすることは困難なので、整備工場で定期点検を実施して確実にチェックしてもらいましょう。



！トラブル例

- パンク、バースト(破裂)
- スリップ
- 制動距離が長くなる

※亀裂、損傷や異状摩耗したタイヤでの走行はとても危険です。早急に取り換える必要があります。



日常点検のチェック箇所

STEP 2 クルマのまわりを回ってここも点検

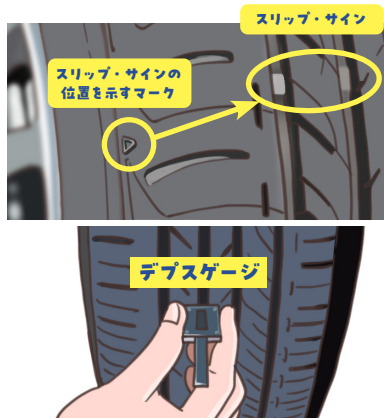
8 タイヤの溝の深さ

溝の深さが十分あるかをスリップ・サインなどにより点検します。なお、デプスゲージを使用すれば残り溝の深さがわかります。

タイヤは負荷がかかる部分（一番使用している重要な部分）が最も摩耗するので、部分的に溝が減っている場合でも交換の必要性があります。



スリップ・サインは、タイヤの溝の深さが1.6mm以下になると現れます。



！トラブル例

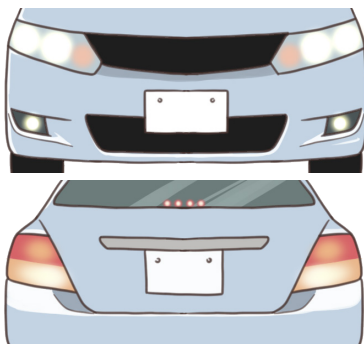
- パンク、バースト（破裂） ●スリップ ●制動距離が長くなる
- ※スタッドレスタイヤは溝の深さが50%まで摩耗すると積雪路・凍結路での性能が低下するので、タイヤの溝の深さが50%に達するとプラットホーム（冬用タイヤとしての使用限度を示すサイン）が現れます。

9 ランプ類の点灯、点滅およびレンズの汚れ、損傷

1 エンジン・スイッチをONにして、ヘッドランプ、テールランプ、ライセンスランプ、ブレーキランプ、クリアランスランプ、バックアップランプなどの点灯具合やウインカランプの点灯具合及び点滅速度が不良でないかを点検します。フォグランプ付車はフォグランプの点灯具合も点検しましょう。

2 レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

ランプ類は他の交通へ合図を送る重要な装置なので、必要な場合は整備工場でチェックしてもらいましょう。



！トラブル例

- 夜間、悪天候時及びトンネル走行時等に前方視界が確保できない
 - 他車への意思表示ができない
- ※ウインカ・ランプが球切れを起こすとメータ内のインジケータ・ランプ点滅速度に変化が生じます。

STEP3では運転席での操作に対するクルマの反応を確認します。新車時や定期点検直後との違いを意識しながら点検しましょう。

10と11の点検は令和7年10月8日より、ブレーキ・ペダルの操作量の異常を検知するセンサーや電動パーキング装着車の場合は、警告灯にて確認することもできるよ。

STEP 3 運転席に座ってここも点検

10 ブレーキ・ペダルの踏みしろおよびブレーキの効き

ブレーキ・ペダルをいっぱい踏み込んだとき、床板とのすき間（踏み残りしろ）や踏みごたえが適当であるかを点検します。また、ブレーキの効きが適当であるかを点検します。

徐々に進行する変化には気が付きにくいので、整備工場で定期点検を実施して、専門的な知識を有する整備士に確実にチェックや調整をしてもらいましょう。



踏み残りしろの基準値はクルマの取扱説明書等で確認しましょう。

！トラブル例

- ブレーキの効が悪い場合、追突事故の危険性が高い
- ※床板とのすき間が少なくなっているときや踏みごたえがやわらかく感じるときは、ブレーキ液の漏れや空気の混入が考えられます。整備工場へ依頼して原因をつきとめましょう。

11 パーキング・ブレーキ・レバー（ペダル）の引きしろ（踏みしろ）

パーキング・ブレーキ・レバーをいっぱい引いたとき、引きしろが多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検します。また、パーキング・ブレーキがペダル式のクルマは、ペダルの踏みしろで点検します。

徐々に進行する変化は見逃しがちなので、整備工場定期点検を実施して、専門的な知識を有する整備士に確実にチェックや調整をもらいましょう。

※電動パーキング装置車の場合は、取扱説明書にて点検方法をご確認ください。



引きしろ（踏みしろ）の基準値はクルマの取扱説明書等で確認しましょう。

！トラブル例

- パーキング・ブレーキの効が悪くなる ●パーキング・ブレーキの引きずり

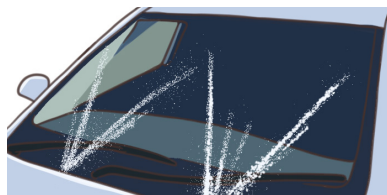
日常点検のチェック箇所

STEP 3 運転席に座ってここを点検

12 ウインド・ウォッシャの噴射状態

ウインド・ウォッシャ液の噴射の向きおよび高さが適当かを点検します。

噴射の向きや高さが適当でなく、自分で調整等できない場合は、整備工場に依頼しましょう。



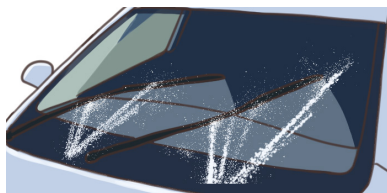
！トラブル例 ● フロントガラスの汚れを落とせない ● 飛散による他の交通等への悪影響

13 ワイパの拭き取りの状態

1 ワイパを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。

2 ウォッシャ液がきれいに拭き取れるかを点検します。

拭き取り状態が悪く、ワイパのゴム等を自分で交換できない場合は、整備工場に依頼しましょう。



！トラブル例 ● フロントガラスの雨や汚れを拭き取れない
※ワイパのから拭きは、ガラスを傷つけますので、ウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させましょう。

14 エンジンのかかり具合および異音

エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時およびアイドリング状態で、異音がないかを点検します。

徐々に進行する変化には気付きにくいので、整備工場ですべて点検を実施して、専門的な知識を有する整備士に確実にチェックしてもらいましょう。



！トラブル例 ● エンジンがかからない ● エンジンの力不足 ● エンジン内部不具合

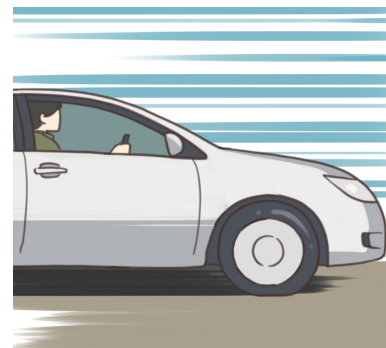
ハイブリッド車やEV車（電気自動車）は、従来のクルマと構造が大きく異なるので、エンジンルーム内等の点検は特に慎重に行ってください。



15 エンジンの低速および加速の状態

1 エンジンが温まった状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。

2 アクセル・ペダルを徐々に踏み込んだとき、アクセル・ペダルに引っ掛かりがないか、また、エンスト、ノッキングなどを起こすことなくスムーズに回転するかを走行して点検します。

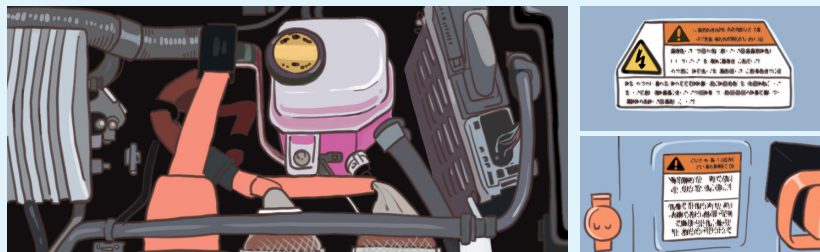


徐々に進行する変化には気付きにくいので、整備工場ですべて点検を実施して、専門的な知識を有する整備士に確実にチェックしてもらいましょう。

！トラブル例 ● 排気ガス悪化による環境汚染 ● 走行中のエンジンストップによる追突
※走行して点検しますので、交通状況に注意し、安全な場所で行いましょう。

ハイブリッド車・EV車（電気自動車）の触れてはいけない部品例

ハイブリッド車やEV車（電気自動車）は高電圧ケーブル、高電圧バッテリーを搭載しているので不用意に触れると高電圧により、重度の火傷や感電の恐れがあります。一般ユーザーが不用意に触ってはいけない部品は、下の写真のようにオレンジ色になっていたり、注意書きシール等が貼られていますので、点検時は十分に注意しましょう。



日常点検チェックシート

自家用乗用車の日常点検チェック・シート

自家用乗用車の日常点検は1か月に1回を目安に行ってください。それ以外でも、高速道路の走行前、長距離運転の前や大雨の中での走行・雪道走行の後などには、しっかりとチェックしましょう。

自家用乗用車の日常点検は、この点検項目についてチェックしてください。

年 月 日

点検項目			判定・○ ×	
1 エンジンルームを のぞいてここを点検	1 ウインド・ウォッシャ液の量		○	×
	2 ブレーキ液の量		○	×
	3 バッテリー液の量		○	×
	4 冷却水の量		○	×
	5 エンジン・オイルの量		○	×
2 クルマのまわりを 回ってここを点検	6 タイヤの空気圧 (含むスペア・タイヤ)		○	×
	7 タイヤの亀裂、損傷および異状な摩耗	亀裂、損傷	○	×
		異状摩耗	○	×
	8 タイヤの溝の深さ		○	×
	9 ランプ類の点灯、点滅およびレンズの汚れ、損傷	点灯 (点滅)	○	×
汚れ、損傷		○	×	
3 運転席に座ってここを点検	10 ブレーキ・ペダルの踏みしろおよびブレーキの効き	踏みしろ	○	×
		効き	○	×
	11 パーキング・ブレーキ・レバーの引きしろ		○	×
	12 ウインド・ウォッシャの噴射状態		○	×
	13 ワイパの拭き取りの状態		○	×
	14 エンジンのかかり具合および異音	かかり具合	○	×
		異音	○	×
15 エンジンの低速および加速の状態	低速	○	×	
	加速	○	×	
4 その他			○	×
			○	×
			○	×

自家用乗用車と自家用貨物自動車では点検項目等が異なります。
それぞれのチェックシートのコピーをとって、実際に点検をしてみましょう



自家用貨物自動車等の日常点検チェック・シート

自家用貨物自動車 (ライトバン、トラックなど) は1日1回、運行前に日常点検を実施することになっています。一般的に乗用車と比べて走行距離が多くなることから、クルマの状態をしっかりと把握することが大切です。

自家用貨物自動車等の日常点検は、この点検項目についてチェックしてください。

点検箇所		点検内容		判定・○×	
1 ブレーキ	● (※1)	①ブレーキ・ペダルの踏みしろが適当で、ブレーキの効きが十分であること。 ・ブレーキ・チャンパのロッドのストロークが適当であること ・ブレーキ・ドラムとライニングとのすき間が適当であること		○	×
		②ブレーキ液の量が適当であること。		○	×
		③空気圧力の上がり具合が不良でないこと。		○	×
		④ブレーキ・ペダルを踏み込んで放した場合にブレーキ・バルブからの排気音が正常であること。		○	×
		⑤駐車ブレーキ・レバーの引きしろが適当であること。		○	×
2 タイヤ	● (※1)	①タイヤの空気圧が適当であること。(含むスペア・タイヤ)		○	×
		②亀裂および損傷がないこと。		○	×
		③異状な摩耗がないこと。		○	×
		④溝の深さが十分であること。		○	×
		⑤ディスク・ホイールの取付状態が不良でないこと。		○	×
3 バッテリー	● (※1)	①液量が適当であること。		○	×
4 原動機	● (※1)	①冷却水の量が適当であること。		○	×
		②ファン・ベルトの張り具合が適当であり、かつ、ファン・ベルトに損傷がないこと。		○	×
		③エンジン・オイルの量が適当であること。		○	×
		④原動機のかかり具合が不良でなく、かつ、異音がないこと。		○	×
		⑤低速および加速の状態が適当であること。		○	×
5 灯火装置および方向指示器	● (※1)	①点灯または点滅具合が不良でなく、かつ、汚れおよび損傷がないこと。		○	×
6 ウインド・ウォッシャーおよびワイパー	● (※1)	①ウインド・ウォッシャーの液量が適当であり、かつ、噴射状態が不良でないこと。		○	×
	● (※1)	②ワイパの払拭状態が不良でないこと。		○	×
7 エア・タンク	●	①エア・タンクに凝水がないこと。		○	×
8 運行において異常が認められた箇所		当該箇所に異常がないこと。		○	×

注：(※1) 印の点検は、当該自動車の走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に行うことで足りる。
(※2) 印の点検は、車輛総重量8トン以上または乗車定員30人以上の自動車に限る。
●印の点検は、エア・ブレーキを用いた自動車についての点検を示す。

故障予防のために定期的な点検・整備(定期点検)のすすめ

クルマの部品の消耗・劣化は重大な故障の原因となる可能性があります。クルマを安全・快適に使用するためには定期的な点検・整備が不可欠。定期点検により、クルマの状態を正確に把握し、状態に応じた整備を行ってください。

主な消耗・劣化部品と点検・整備の必要性

OK

新品です

エアクリーナエレメント



NG

交換してください

クルマを使用しているうちにフィルターが汚れたり、目詰まりしたりしてくるエアクリーナエレメント。そのまま使い続けると、エンジン性能が低下してしまい燃費や排気ガスの悪化も引き起こしてしまいます。クルマ本来の性能を維持するためにも、適切な時期に交換することが必要です。

詳しくは動画で説明



OK

新品です

ブレーキフルード



NG

交換してください

ブレーキフルードは油圧に変換したペダル踏力をブレーキ装置に伝える役目をしている重要な油脂です。常に補助タンクの通気口から空気中の水分などを吸収し劣化していき、フルード内に気泡が発生しやすくなり油圧が適切に伝わらずにブレーキの効が悪くなるおそれがありますので、定期的な交換が必要です。

詳しくは動画で説明



適切な点検・整備を実施することで環境保全に貢献できるんだよ！
また、下記の消耗部品の交換とともにタイヤの空気圧調整も行うと、燃費の悪化を防止することが期待出来るよ！



OK

新品です

エンジンオイルフィルタ



NG

交換してください

エンジンオイルをろ過し、汚れを取り除く働きを担うのがオイルフィルタです。エンジンオイルの汚れには、金属粉(削りカス)、カーボン(燃え残りカス)などがあり、適切な時期に交換を行わないとフィルタが目詰まりをおこします。フィルタの目詰まりにより汚れの除去ができなくなるとエンジンに重大な損傷を与えるおそれがあるので、定期的な交換が必要です。

詳しくは動画で説明



OK

新品です

エンジンオイル



NG

交換してください

エンジンの主な部品は金属でできていて、それぞれの部品が回転運動や往復運動をしてパワーを発生させています。エンジンオイルは金属の部品同士が直接触れないように膜を作って摩擦を減らし、エンジンをスムーズに動かす働きをしており、エンジン内で繰り返し働いているうちに劣化していくことから定期的な交換が必要です。

詳しくは動画で説明



定期点検とは

定期点検とは自家用乗用車の場合、車検と車検の間の年に行う1年点検と車検時に行う2年点検があり、自動車の故障を未然に防ぎ、その性能維持を図るのが目的です。ユーザー本人が容易に行うことができる日常点検にくらべて専門的知識・技術等が必要な点検内容なので、整備工場に依頼して、しっかり点検してもらいましょう。

定期点検は、専門的な知識を有した整備工場で確実に実施しましょう。ここでは、定期点検の項目数とその一例を紹介します。



自家用乗用車の定期点検項目

1年点検 全29項目 2年点検 1年点検の29項目を含む全60項目

※車両の使用状況、装備等によっては、別途点検等が必要な場合があります。

各装置の定期点検項目の一例

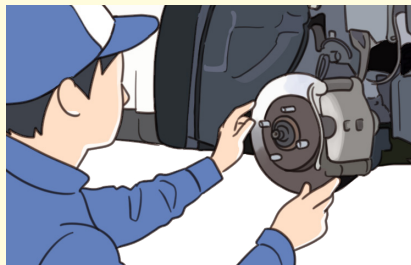
ステアリング装置

ハンドル操作の不具合を防止するため、ロッドおよびアームの緩み、がた、損傷等を点検します。



ブレーキ装置

ブレーキの効き不良を防止するため、ブレーキディスクの摩耗および損傷等を点検します。



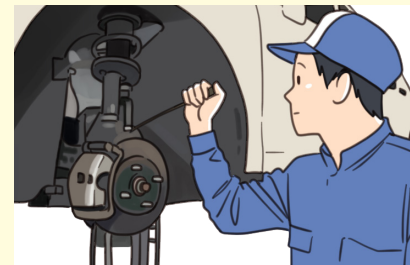
走行装置

ホイールの脱落などを防止するため、ホイールナットおよびホイールボルトの緩み等を点検します。



サスペンション

サスペンションの異音の発生や不具合を防止するため、取付部および連結部の緩み、がた、損傷等を点検します。



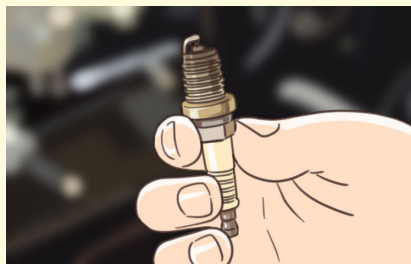
動力伝達装置

走行時の振動や動力伝達不良を防止するため、プロペラシャフト連結部の緩み等を点検します。



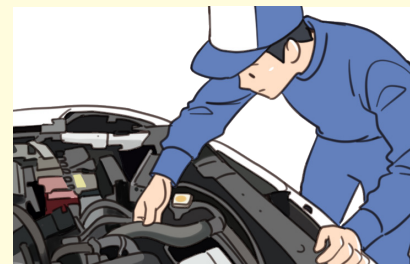
電気装置

エンジンの始動不良や排気ガス悪化防止のため、点火プラグの状態等を点検します。



エンジン

エンジンの不具合を防止するため、冷却装置の水漏れ等を点検します。



ばい煙・悪臭のあるガス・有害ガスなどの発散防止装置

熱害による火災発生等を防止するため、排出ガス減少装置の取付の緩みおよび損傷等を点検します。



最近のクルマの点検・整備事情

NEWS 点検整備の現場で活躍するスキャンツール（外部診断器）

目覚ましい技術革新により、クルマの利便性は日々向上しています。低燃費性能の追及や安全性向上等のため、エンジンはもちろん、ブレーキやステアリング操作等を統合的にコントロールしているクルマも数多く存在します。そうしたクルマは電子制御装置を多用しているため、スキャンツールを使わなければ状態を正確に把握することが困難です。スキャンツールとは、車両に接続しコンピュータと通信を行い、解析及び整備するための情報を表示できる機器で、言わばクルマの状態を「見えるようにする道具」です。クルマが便利になった分、その点検・整備には専門の機器と高度な知識や技術が必要となるのです。



スキャンツール



OBDコネクタ

NEWS OBD点検・OBD検査とは？ スキャンツールを用いて電子的な不具合を発見します！

衝突被害軽減ブレーキやレーンキープアシストなどを装備する先進安全自動車は、交通事故の防止に大きな効果が期待されますが、故障時には誤作動による事故などにつながるおそれがあります。機械部分の点検とともに目に見えない電子部分も点検や検査をすることで故障を未然に防ぎ、その性能維持を図ります。

OBD点検 法定1年定期点検で義務付けられている点検です

OBD点検は、「整備用スキャンツール」をOBDコネクタに接続し、車両の「OBD^{*1}」が記録している各装置の故障（DTC^{*2}）の有無を読み出すことで、各装置が正常に作動しているかを点検します。過去の故障も記録している装置もあり、気づきにくい不具合も把握できます。

OBD検査 車検の検査項目の1つです

OBD検査^{*3}は、従来の自動車の検査では発見できなかった電子制御装置の故障の有無に反応する電子的な検査で、車両に搭載された電子制御装置の状態を監視して故障を記録する「OBD」から「検査用スキャンツール」を用いて、車両に記録された「特定DTC」を読み取り、完成検査時に合否判定をおこないます。

※1：OBDとは、車両に搭載されたコンピュータが各種装置の状態を監視するとともに、故障の有無を記録する装置である。

※2：DTCとは、車両故障時にコンピュータが記録する故障コードである。

※3：OBD検査対象車は、国産車は令和3年10月1日以降の新型車、輸入車は令和4年10月1日以降の新型車になります。（OBD検査対象車両は車検証の備考欄に記載あり）

OBD点検やOBD検査以外にも、指定工場では車検受入れ時に、認証工場では車検場に持ち込む前などに「特定DTC」の有無を確認し、事前に異常がないことを確認する、「OBD確認」という作業を行うこともあります。完成検査前にOBD確認を行うことで、追加整備の発生や再検査などの未然防止につながり、その結果、車両預かり期間の長期化防止が図られます！

NEWS 令和5年1月から自動車検査証（車検証）が変わりました！

令和5年1月より紙の車検証から、順次、電子車検証に切り替わります！

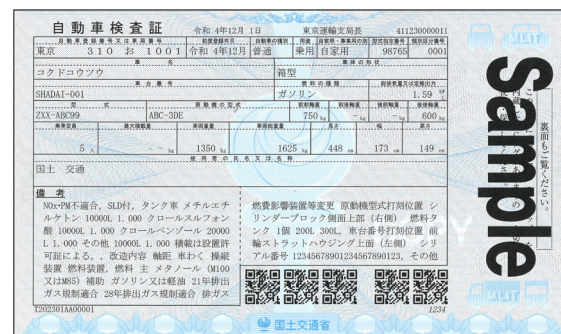
（軽自動車についても、令和6年1月から電子車検証に切り替えが始まりました。）

電子車検証では、用紙サイズがA4からA6にコンパクトになり、また、ICタグが内蔵され、その中に従来、自動車検査証に記載されていたすべての情報が記録されています。

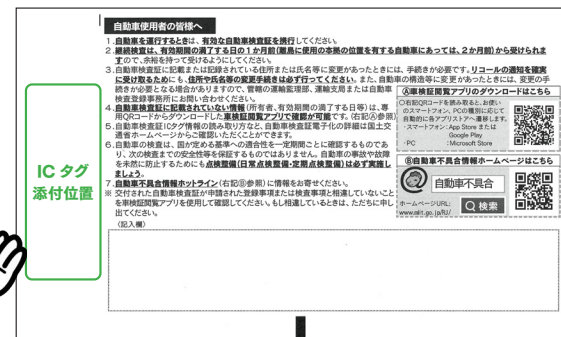
ユーザー本人が電子車検証の情報を確認するには、スマートフォンなどで、右記QRコードから閲覧アプリをダウンロードし、ICタグを読み取ることで可能となります。



車検証閲覧アプリ



表面



うら面

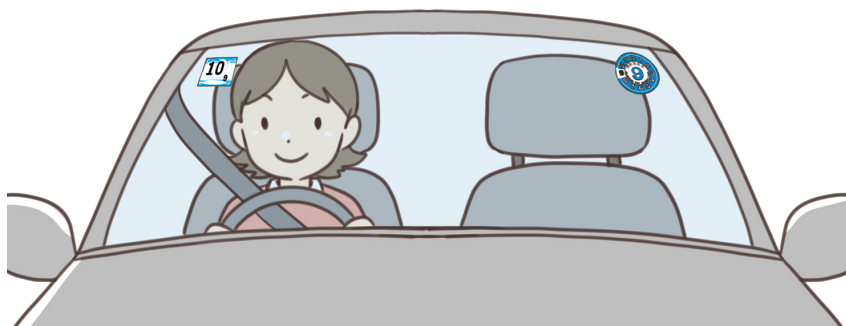
詳しくは、「電子車検証特設サイト」よりご確認ください。
<https://www.denshishakenshoportal.mlit.go.jp/>

定期点検Q&A

Q このステッカーは何ですか？

A 前面ガラスの運転者席上部*に貼付されているのが「**検査標章**」で、助手席側上部に貼付されている丸いステッカーが「**点検・整備済みステッカー**」です。

※令和5年7月以前に車検をしたクルマは、前面ガラスの中央上部に貼付されています。



検査標章

自動車検査証の有効期間（車検期間）を示すものです。この検査標章を表示しなければ、クルマを運行することはできません。なお、定期点検整備を未実施の車両（軽自動車以外）については、検査標章の裏面に「法定点検未実施（車検時）」と記載されます

※令和6年1月から軽自動車についても右の「検査標章（登録車）」と同様のデザインになります。



検査標章 表
（登録車）



法定点検未実施の
車両に貼付けされる
検査標章の裏面

点検・整備済みステッカー

定期点検整備を確実に実施したクルマであることを示すものです。今回の定期点検整備の実施時期が外から見てわかるように実施年月を表示しています。また、裏面には定期点検整備を実施した整備事業場名、今回の定期点検整備の実施時期等が記載されています。



表
点検・整備済みステッカー



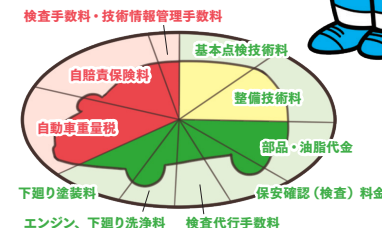
裏

知っているようで意外と知らない車検と定期点検のこと。
疑問をしっかり解消しましょう。



Q 車検を受ける際の費用の内訳はどうなっているのでしょうか？

A 車検の費用には、クルマの点検・整備に必要な料金（技術料、部品・油脂代、保安確認料など）と、税金等諸費用（自動車重量税、自賠責保険料、検査手数料など）があります。



車検時には点検・整備料金と税金等の諸費用が必要です。

点検・整備料金など	基本点検技術料	定期点検で義務づけられている項目の点検を行う技術料金
	整備技術料	点検の結果、整備が必要な箇所の整備を行う技術料金 お客さまのご用命により行う整備を行う技術料金
	部品・油脂代金	使用部品、エンジン・オイルなどの代金
	保安確認（検査）料金	検査機器などを使用して基準に適合しているかどうかの確認を行う技術料金
	検査代行手数料	お客さまに代わって、車検証の更新手続きを行うための料金
税金などの諸経費	その他	エンジン、下廻り洗浄料 より正確な点検整備を行うためのエンジン、下廻りなどの洗浄料金
	下廻り塗装料	クルマの下廻りの腐食などを防止するための塗装料金
	自動車重量税	車検時に国に納める税金
	自賠責保険料	自動車使用者が必ず入らなければならない法律で定められている強制保険
	検査手数料	検査を受け、自動車検査証の交付を受けるための国へ納める手数料
	技術情報管理手数料	自動車の電子的な検査に必要な情報システムの管理・運用のために納める手数料

※「国産自動車点検・整備料金実態調査」による全国の平均的料金等より割合をグラフ化（自家用乗用車の一般的な車両）。

Q ユーザー車検（車検代行を含む）と整備事業場による車検の違いは？

A それぞれの特徴は次の通りです。最も大きな違いは車検の際に整備工場では必ず定期点検を実施するという点です。

ユーザー車検・車検代行

自動車ユーザー自らまたは、ユーザー車検代行業者がクルマを国の検査場へ持ち込んで車検を受けることをいいます。これらの場合、車検の際に点検整備を実施しないケースがほとんどであり、トラブルが発生してしまう可能性が高くなります。

整備工場による車検

国から認証を受けた事業場として、クルマの状態を点検した上で必要な整備を実施し、安全面、公害防止面を十分に確認したうえで車検を受けます。また、整備工場では、定期点検を実施したクルマには整備保証をしているので、より安心してクルマを使用できます。

ユーザーにクルマの「保守管理責任」があるという観点からも、車検時には検査だけでなく、きちんと定期点検整備を実施するのは当然のことです。

2年定期点検用点検整備記録簿 例

自家用乗用車等

定期点検整備記録簿は、あなたのクルマの点検結果と整備概要を記録し、保存しておくための“診断カルテ”です。このカルテはクルマに備えつけることになっていて、定期点検を行うたびに記録していくものです。保存期間は自家用乗用車で2年、その他のクルマは1年となっています。

点検整備記録簿はクルマのカルテ。
大切に保管して、愛車の健康管理に役立ててください。



該当する装置がない場合を示します。

日常点検項目ですが、ユーザーが実施していないときは、整備工場で実施してもらうことも可能です。

点検時の総走行距離を記入します。

自動車に備えられた
電子的な故障診断装置に
スキャンツールを接続するなどして
点検を実施します。

追加して実施した点検・整備項目と
点検結果などを記入します。

交換した部品名とその数量を記入します。

エンジン・オイルを交換しました。

メンテナンスについて整備の
プロからのアドバイスを記入します。

点検を行った年月日を記入します。

次回の点検日を記入します。

整備状態を確認した者の
氏名を記入します。

点検結果を示す記号の意味

点検の結果について、
該当する記号を記入します。

これだけしっかり
見てもらえば
安心だね！




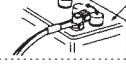
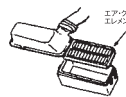









点検時の排気ガス濃度測定値を
記入します。

2年定期点検用点検整備記録簿（特定整備記録簿写）

乗用車等・別表第6

印の記録簿は、二年間維持保存して下さい。

使用者用

点検の結果及び整備の概要 ●点検良好 ○交換 △調整 A清掃 C省略 D点検時 特定整備 ○修理 △締付 T 給油(注) L 該当なし /		住 所 _____ 点検 (整備) 時の総走行距離 _____ km																								
エンジン・ルーム点検 ■パワー・ステアリング ベルトの張り、損傷 <input checked="" type="checkbox"/> ★取付けの締め <input checked="" type="checkbox"/> オイルの量 <input checked="" type="checkbox"/> オイルの漏れ <input checked="" type="checkbox"/>  ■冷却装置 ファンベルトの張り、回り方の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 冷却水の漏れ <input checked="" type="checkbox"/> ■燃料装置 燃料漏れ <input checked="" type="checkbox"/> ■公害発散防止装置等 リングバルブの状態 <input checked="" type="checkbox"/> ブローバイ・ガス還元装置の配管の損傷 <input checked="" type="checkbox"/> 燃料蒸気ガスを排出防止装置の作動の確認 <input checked="" type="checkbox"/> エンジン・エキスタの詰まり、損傷 <input checked="" type="checkbox"/> 燃料蒸気ガスを排出防止装置のチェックバルブの確認 <input checked="" type="checkbox"/> 触媒等の排出口減少量の取付けの確認 <input checked="" type="checkbox"/> 空気供給装置の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 排気ガス再循環装置の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 減速時排気ガス減少装置の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 一酸化炭素発生抑制装置の配管の確認、取付状態 <input checked="" type="checkbox"/> ■バッテリー、電気配線 ターミナル部の腐み、腐食 <input checked="" type="checkbox"/> 電気配線の接続部の腐み、損傷 <input checked="" type="checkbox"/>  ■エンジン 排気ガスの色 <input checked="" type="checkbox"/> CO、HCの濃度 <input checked="" type="checkbox"/> ☆スターラインエレメントの汚れ、詰まり、損傷 <input checked="" type="checkbox"/> 		室内点検 ■カーラジオ・ブレーキ（ペダル） 引きしる（踏みしる） <input checked="" type="checkbox"/> パーキング・ブレーキの効果具合 <input checked="" type="checkbox"/>  ■クラッチ・ペダル 遊び <input checked="" type="checkbox"/> 切れたたきの床板とのすき間 <input checked="" type="checkbox"/>  足廻り点検 ■かじり取り車輪 ☆ホイール・アライメント <input checked="" type="checkbox"/> ■ジョック・アッソーバ 損傷、オイルの漏れ <input checked="" type="checkbox"/>  ■サスペンション 取付部、緩結部の腐み、がた <input checked="" type="checkbox"/> 各部の損傷 <input checked="" type="checkbox"/> ■ブレーキ・マスターシリンダ、ホイールシリンダ、ディスクキャリパー マスターシリンダの液漏れ <input checked="" type="checkbox"/> ホイールシリンダの液漏れ <input checked="" type="checkbox"/> ディスクキャリパーの液漏れ <input checked="" type="checkbox"/> マスターシリンダの機能、摩耗、損傷 <input checked="" type="checkbox"/> ホイールシリンダの機能、摩耗、損傷 <input checked="" type="checkbox"/> ディスク・キャリパーの機能、摩耗、損傷 <input checked="" type="checkbox"/>    ■ドラム・ブレーキ ☆ドラムとライニングのすき間 <input checked="" type="checkbox"/> ラインニングの磨耗部分、スプリングの腐食 <input checked="" type="checkbox"/> ドラムの摩耗、損傷 <input checked="" type="checkbox"/> 		下廻り点検 ■エンジン・オイル 漏れ <input checked="" type="checkbox"/> ★取付けの締め <input checked="" type="checkbox"/> ■スターティング・ロッド・アーム ☆緩み、がた、損傷 <input checked="" type="checkbox"/> チョーク・ジョイントのグリスアップの要無損傷 <input checked="" type="checkbox"/> ■トランスミッション・トランスファ ☆オイルの漏れ <input checked="" type="checkbox"/> ☆オイルの量 <input checked="" type="checkbox"/> ■70ベアシャフト・ドライブシャフト ☆連結部の緩み <input checked="" type="checkbox"/> ☆ドライブシャフトとボールジョイント部とのすり減り無損傷 <input checked="" type="checkbox"/>  ■デフレンシャル ☆オイルの漏れ <input checked="" type="checkbox"/> ☆オイルの量 <input checked="" type="checkbox"/>  ■ブレーキ・ホース、パイプ 漏れ、損傷、取付状態 <input checked="" type="checkbox"/>		車載式故障診断装置点検 OBDの診断の結果 <input checked="" type="checkbox"/> <hr/> その他の点検・整備項目 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;">交換部品等</th> <th style="width: 20%;">数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エンジン・オイル</td> <td style="text-align: center;">3 ℓ</td> </tr> <tr> <td>オイル・フィルタ</td> <td style="text-align: center;">1 個</td> </tr> <tr> <td>LLC (ロング・ライフ・クーラント)</td> <td style="text-align: center;">1 ℓ</td> </tr> <tr> <td>ブレーキ・フルード</td> <td style="text-align: center;">0.5 ℓ</td> </tr> <tr> <td>ブレーキ・パッド</td> <td style="text-align: center;">1 セット</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> メンテナンスに関するアドバイス スペアタイヤの空気圧が低かったので調整しました。 次回点検時にはライニングの交換時期になりますので。		交換部品等	数量	エンジン・オイル	3 ℓ	オイル・フィルタ	1 個	LLC (ロング・ライフ・クーラント)	1 ℓ	ブレーキ・フルード	0.5 ℓ	ブレーキ・パッド	1 セット							
交換部品等	数量																									
エンジン・オイル	3 ℓ																									
オイル・フィルタ	1 個																									
LLC (ロング・ライフ・クーラント)	1 ℓ																									
ブレーキ・フルード	0.5 ℓ																									
ブレーキ・パッド	1 セット																									
●CO、HC濃度 (アイドリング時) CO 0.1 % HC 50 ppm		●タイヤの溝の深さ (1.6mm以上) ●ブレーキ・パッド、ライニングの厚さ																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">前輪</td> <td style="width: 10%;">左</td> <td style="width: 10%;">2.2 mm</td> <td style="width: 10%;">右</td> <td style="width: 10%;">2.1 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>後輪</td> <td>左</td> <td>2.3 mm</td> <td>右</td> <td>2.2 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>前輪</td> <td>左</td> <td>11 mm</td> <td>右</td> <td>11 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>後輪</td> <td>左</td> <td>2 mm</td> <td>右</td> <td>2.5 mm</td> </tr> </table>		前輪	左	2.2 mm	右	2.1 mm		後輪	左	2.3 mm	右	2.2 mm		前輪	左	11 mm	右	11 mm		後輪	左	2 mm	右	2.5 mm	事業場名、所在地、認証番号 _____ 点検年月日 _____ 次回点検年月日 _____ 年 月 日 年 月 日 整備完了年月日 _____ 整備主任者の氏名 _____ 年 月 日 年 月 日	
前輪	左	2.2 mm	右	2.1 mm																						
	後輪	左	2.3 mm	右	2.2 mm																					
	前輪	左	11 mm	右	11 mm																					
	後輪	左	2 mm	右	2.5 mm																					

☆は1年、5,000km以下、★は2年、10,000km以下の走行距離によって省略できる項目。 OBDとは車載式故障診断装置を示す。

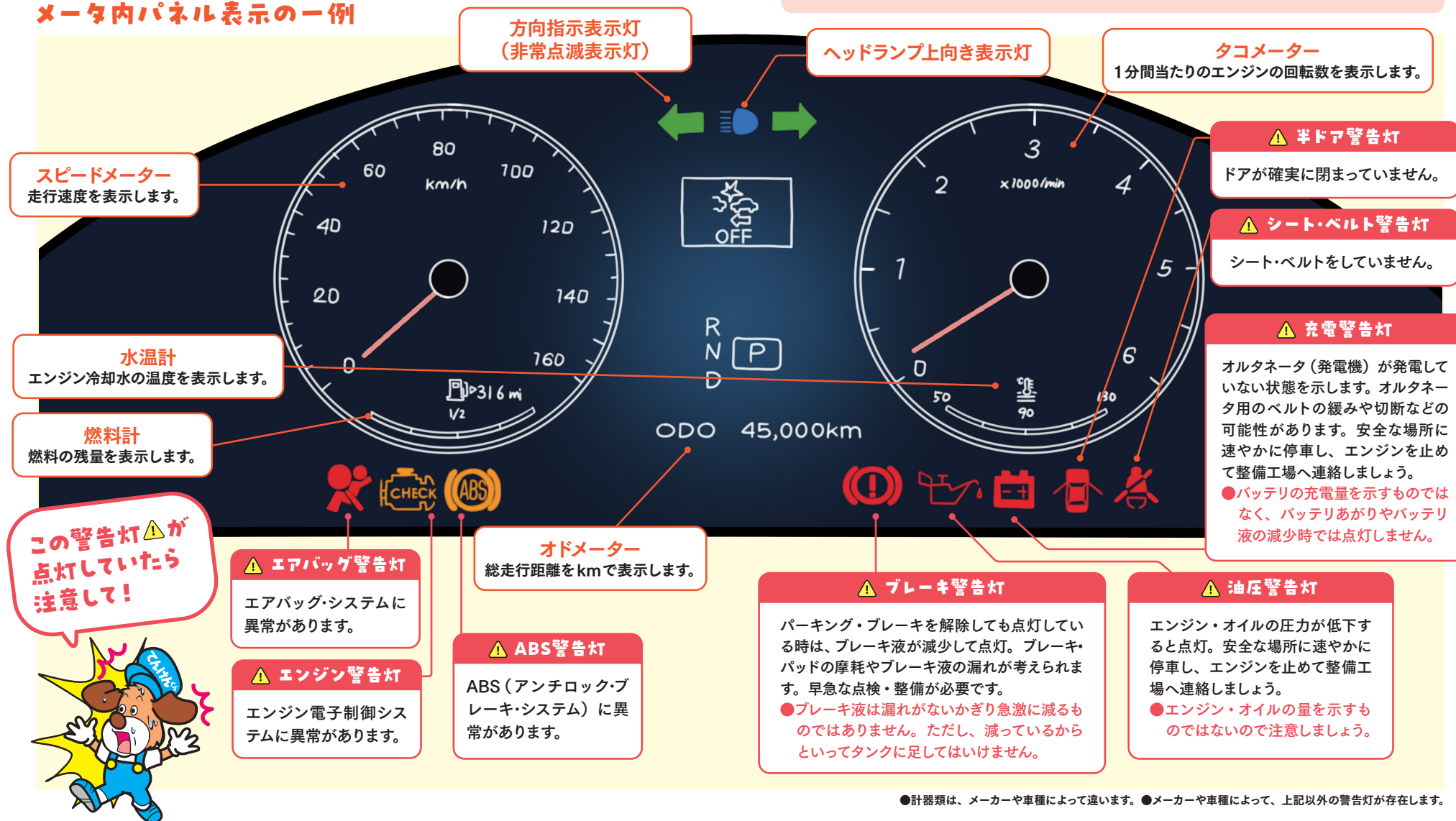
ブレーキ・パッドを
交換しました。

整備を完了した年月日を記入します。

メーターパネル(計器)からのシグナル 代表例

あなたはメーターパネルの計器類やランプ類をいくつ知っていますか？ どれも、きちんとした目的をもっており、特に警告灯は、トラブルを事前に教えてくれる大切な役目を持っています。エンジンをかけて、次の警告灯が点灯したままになったら整備工場で点検してもらいましょう。

メーターパネル表示の一例



自動命令型操舵機能(レーンキープ)、衝突被害軽減ブレーキの警告灯(例)

先進運転支援システム搭載のクルマはシステム等の異常が発生した際にインフォメーションディスプレイなどに、右記の警告灯が表示します。

※詳細はマイカーの取扱説明書をご確認ください。



衝突被害軽減
ブレーキ

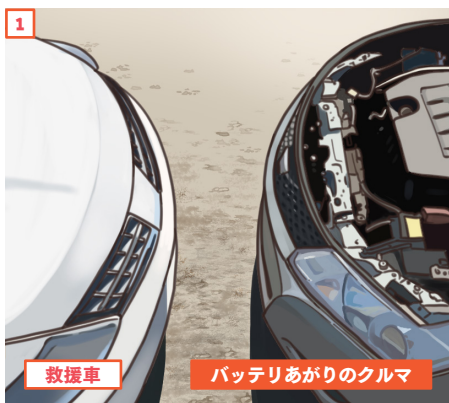


自動命令型操舵機能
(レーンキープ)

トラブル対処法

どんなに気をつけて乗っていても、突然起きるトラブルを100%避けることはできないものです。そんなとき、大切なのは「あわてない」こと。二次災害を起こさないよう、落ち着いて対処しましょう。

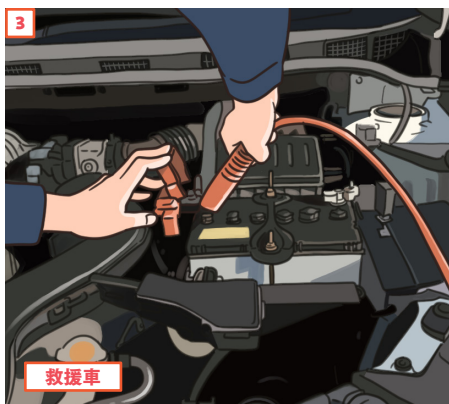
1 バッテリーがあがったら（ガソリン車の一例）



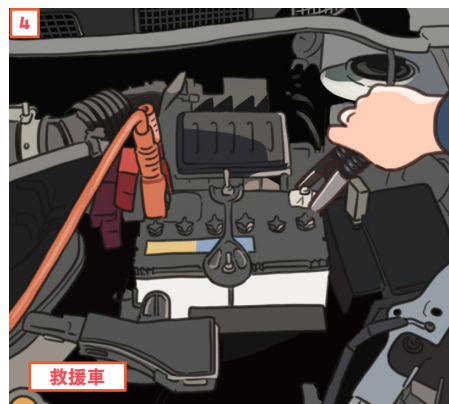
ブースターケーブルを接続できる位置に救援車を止めて、エンジンを停止しておきます。



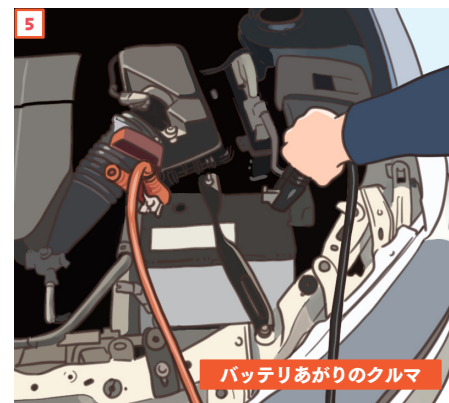
ブースターケーブルを次の順に接続します。赤いケーブルを、バッテリーあがりのクルマのバッテリー⊕端子に接続します。



赤いケーブルのもう一端を、救援車のバッテリー⊕端子に接続します。



黒いケーブルを、救援車のバッテリー⊖端子に接続します。



最後に反対側の黒いケーブルをバッテリーあがりのクルマのエンジン本体のフックもしくは、バッテリー⊖端子に接続します。



救援車のエンジンをかけ、可能な場合はエンジンの回転数を少し上げます。次にバッテリーあがりのクルマのエンジンをかけます。エンジンがかかったら、ブースターケーブルを接続したときと逆の順序で取りはずします。

バッテリーあがりの原因

バッテリーあがりとは、バッテリーの電圧が低くなってエンジン始動できないことを指します。その原因としては、バッテリー自体の故障のほか、さまざまなケースが考えられます。

- バッテリーの寿命
- 電装品の過剰使用
- 発電機のトラブル等
- ライトの消し忘れ
- 長期間放置



ポイント

理由の分からないバッテリーあがりの場合、バッテリーを交換する前に整備工場で点検を受け原因をつきとめましょう。

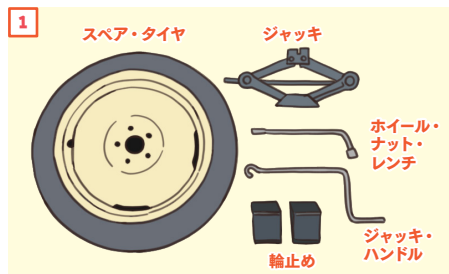
バッテリーには化学薬品などが使われているため、十分に注意しながら作業をしましょう。車両によっては、救援用端子を別に設けている場合もあります。



トラブル対処法

2-① パンクしたら（スペア・タイヤへの交換手順）

交換のための準備をする

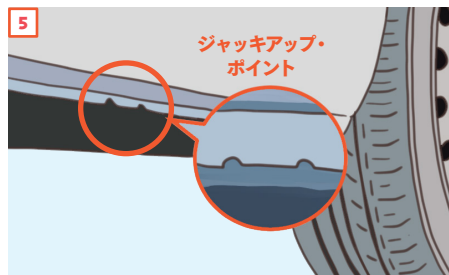


使用する工具とジャッキ等を準備します。



パンクしたタイヤのホイール・キャップをはずします。（無い場合は不要）

ジャッキアップする



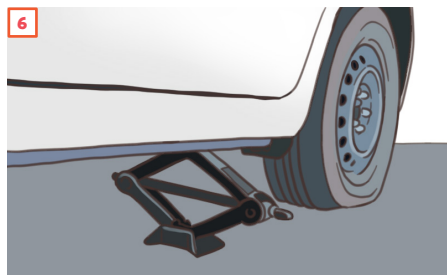
パンクしたタイヤの近くのジャッキアップ・ポイントを確認します。



パンクしたタイヤの対角線にあるタイヤを、輪止め等で固定します。



ホイール・ナットを少しだけ緩めます。

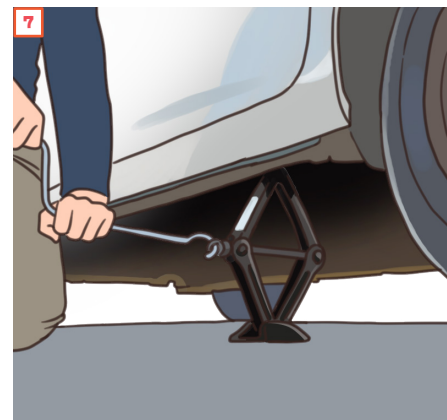


パンクしたタイヤの近くのジャッキアップ・ポイントに、ジャッキをかけます。

タイヤ交換の際は砂利道などでの作業を避け、なるべく平らな場所で行ってください。タイヤ修理剤を使った対処法は次ページで紹介します。



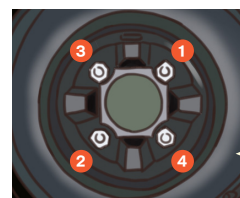
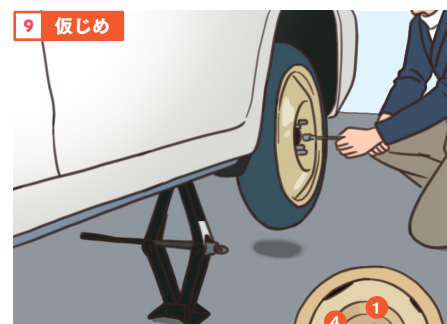
ジャッキアップしたらタイヤを外す → タイヤを取り付ける



パンクしたタイヤが地面から少しはなれるまで車体を持ち上げます。



ホイール・ナットを取りはずし、パンクしたタイヤをスペア・タイヤと交換します。



ホイール・ナットを取り付け、下記に示す番号順にタイヤががたつかなくなるまで、2～3回に分けて仮締めします。



車体を下げ、ジャッキをはずしてから、仮めめのときと同じように2～3回に分けて、ホイール・ナットを十分に締めつけます。

※輪止めの取り忘れにご注意ください。
※取り付けたタイヤが、応急用タイヤの場合は、パンクしたタイヤを早く修理して、もとの位置に取り付けてください。

トラブル対処法

2-② パンクをしたら(タイヤ修理剤を使った対処方法例)

タイヤ修理剤はトレッド部(接地部)にクギやネジが刺さるなどの軽度のパンクを応急修理するためのものです。抜いてしまうと応急修理キットの応急処置ができなくなる場合がありますので注意しましょう。



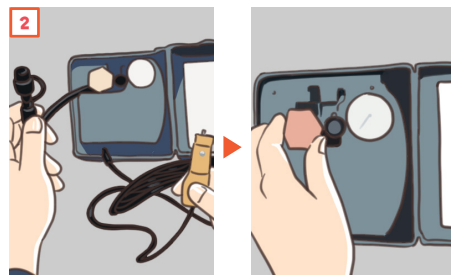
応急修理の手順

本手順等は一例であり搭載されている応急処理キットにより異なります

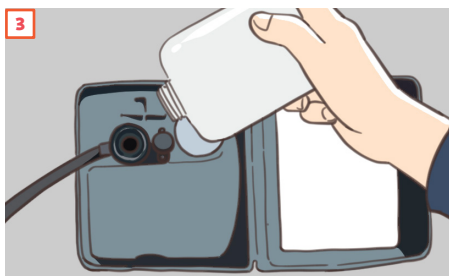


タイヤパンク応急修理キットに付帯している、速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。

※応急修理済であることを運転者へ示すため必ず実施しましょう。



コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出し、ボトルホルダーのキャップを外します。



修理剤ボトルのキャップを外し、注入ホースとの接合箇所に取り付けます。

※修理剤を直接タイヤへ注入するタイプもあります。



ホースの先端をタイヤのバルブにねじ込みます。コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認し、電源プラグを車内の電源ソケットに差し込みます。

※ホースを接続する前に排気用バルブがしまっているか確認してください。

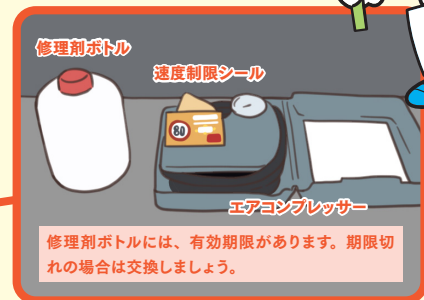
タイヤ修理剤はあくまでも応急処置です。

使用後はすぐに整備工場へ行き、確実な修理などを実施しましょう。



タイヤパンク応急修理キット

タイヤパンク応急修理キットは、ラゲッジルーム側面等に収納されています。修理キットの一例は下記のとおりです。



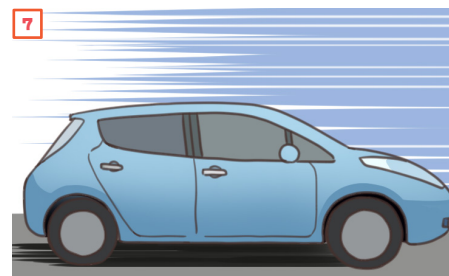
修理剤ボトルには、有効期限があります。期限切れの場合は交換しましょう。



コンプレッサーのスイッチをONにし、タイヤを指定空気圧、または最低基準圧まで上げます。途中、コンプレッサーを一時停止して空気圧を測定します。空気圧が高すぎる場合は、排気用バルブを調整してタイヤの空気を抜きます。



空気圧が上がったら、コンプレッサーのスイッチをOFFにし、電源プラグを電源ソケットから抜き、注入ホースをタイヤのバルブから抜きます。



修理剤を入れたら、定められた時間、または距離を走行してください。運転は規定以下の低速で注意しながら運転します。

※修理剤をタイヤ内に広げるため必ず実施しましょう。



タイヤ空気圧 (kPa)		(kg/cm ²)	
タイヤサイズ	前輪	後輪	
185/65R15	250 (2.5)	230 (2.3)	
応急用タイヤ	420 (4.2)	420 (4.2)	
T125/70D15	420 (4.2)	420 (4.2)	

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの端やセンターピラーに貼付されているラベルに表示されています。

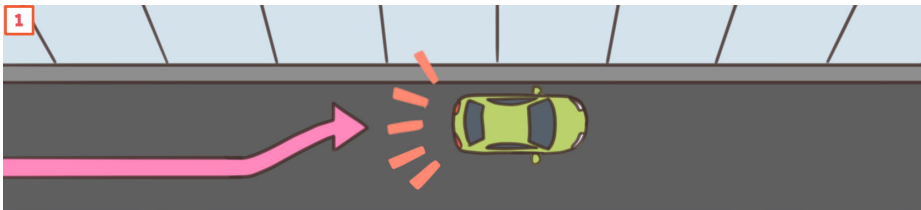
走行後、コンプレッサーのスイッチがOFFの状態ですら注入ホースをタイヤのバルブに取り付け、空気圧を点検します。空気圧が低下していない場合は一時的な修理は完了です。走行前に指定空気圧に調整してください。

タイヤ空気圧が低下したときは、ステップ⑤～⑧を繰り返してください。

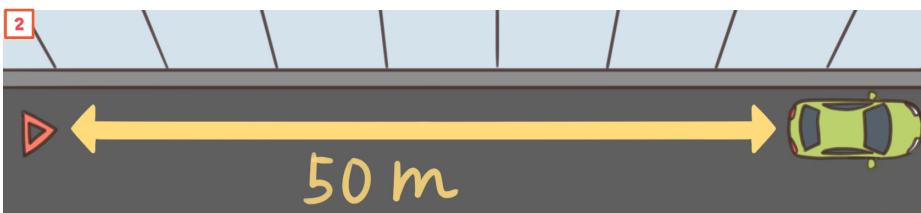
トラブル対処法

3 高速道路でトラブルが起きたら

車両を停止する場合は、ハザードランプを付け停止表示器材を置くこと！



ハザードランプを点灯させ、できるだけ路肩に寄せ、路肩がない場合は可能な限り広い所まで自走しましょう。



停止表示器材を車から50m以上後方に置きます（見通しの悪い場合、さらに後方に）



携帯電話もしくは、お近くの非常用電話にて助けを呼びましょう。

※故障や事故で高速道路上に停車する場合は、同乗者と一緒にガードレールの外側に避難しましょう。
橋や高架など、ガードレールの外側に避難出来ない場合は、追突等の巻き添えにならないように、ガードレールに身を寄せて車より後方に避難しましょう。

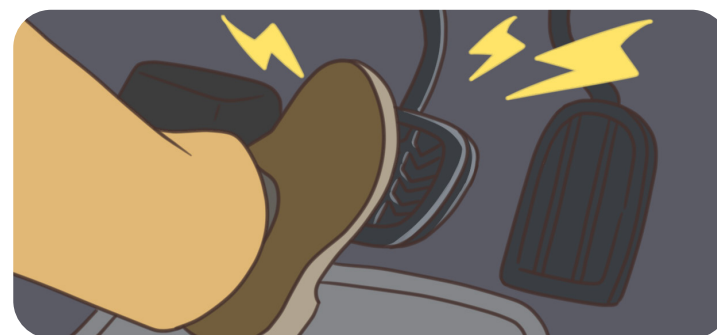
いろんなトラブルがあるけど、スマートキーの電池が切れたら困っちゃうよね。
でも大丈夫！スマートキーには緊急用としてメカニカルキーが内蔵されていて、それを使ってドアを開け、その後、スマートキーをエンジン始動ボタンに近づけてエンジンをかけることができるよ！
※対象の車や具体的な手順は、取扱説明書でご確認ください。



4 ブレーキから異音が出たら

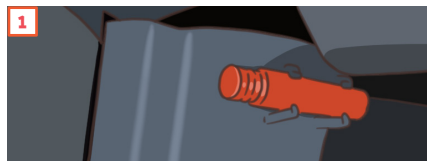
キー、キー音がしたら要注意！

ブレーキ・ペダルを踏むたび、又は走行中常にキー、キーという金属音がしたら、ブレーキのパッドが限界まですり減っているおそれがあります。また、クルマによってはパッドの残量がわずかになると、警告灯で知らせる機構がついています。安全性確保や他の部品への悪影響などを防ぐためにも異音などがしたらすぐに整備工場で点検してもらいましょう。

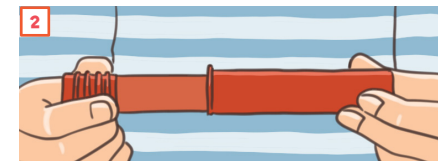


5 発炎筒の点火の仕方

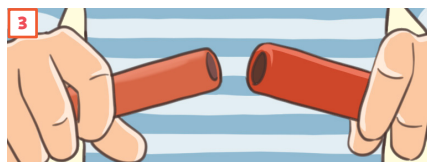
※いたずらで発火する恐れがありますのでお子さまには、触らせないでください。



発炎筒は、通常助手席の足元（左下部）に備えつけられています。



本体をひねりながら取り出します。



キャップ頭部のすり薬でこすり、着火させます。



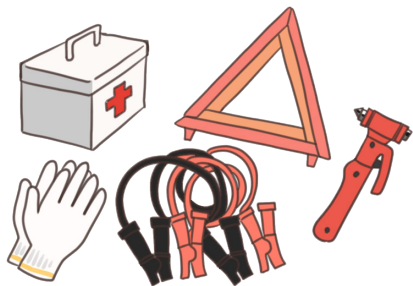
発炎筒を設置して他のクルマ等に危険を知らせます。

発炎筒には、有効期限があります。期限切れの場合は交換しましょう。

知っておきたいクルマの安全対策

車に常備しておく良いもののリスト

車に常備しておく安心・便利なアイテムを紹介します。日常のちょっとした困りごとから、もしもの時まで幅広く対応できるので、「あってよかった!」と思える場面がきっとあるはず。長距離ドライブや家族でのお出かけ、急なトラブルにも落ち着いて対応できるように、気が向いたときに見直しておくのがおすすめです。快適で安心なカーライフのために、ぜひ参考にしてみてくださいね!



緊急時・安全対策グッズ

- ・応急処置セット（絆創膏、消毒液など）
- ・三角表示板
- ・ブースターケーブル
- ・車脱出用ハンマー（緊急時窓割り用）
- ・シートベルトカッター

車両管理・メンテナンスグッズ

- ・軍手
- ・懐中電灯
- ・タイヤ空気圧ゲージ
- ・デブスゲージ

便利グッズ

- ・サングラス（昼間の運転に）
- ・飲料水（ペットボトル数本）
- ・携帯トイレ（渋滞や災害時に便利）
- ・防寒ブランケット（冬季や災害時に）

フロントガラスが曇った時には

車の窓ガラスが曇る主な原因は、車内外の温度差と湿度です。車のフロントガラスが曇った時は下記の方法を試してみましょう!

- エアコンをデフロスタ（フロントガラスの曇りを除去する機能）に設定
 - ▶ フロントガラスに風を当てて曇りを取ります。
- 外気導入に切り替える
 - ▶ 内気循環では湿気がこもるため、外の乾いた空気を取り入れることで曇りを防げます。
- 窓を開けて換気する
 - ▶ 外の乾いた空気が入ることで湿度が下がり、曇りが解消されやすくなります。
- 曇り止めスプレーを使用する
 - ▶ 事前にガラスに塗布しておく、曇りにくくなります。
- タオルで拭くのは応急処置
 - ▶ 一時的には効果がありますが、根本的な解決にはなりません。

ガラスが汚れていると曇りやすくなるため、ガラスクリーナー等で定期的にガラスを清掃することが、曇り防止にとっても効果的です!



災害発生時の対処法

クルマの運転中に地震が発生したら!?

走行時の対処法（一般道）

- 急ブレーキを踏まない。
- 他の車の動きに注意をはらいながらゆっくりと車を左に寄せる。
- 高速道路上で地震のゆれを感じた場合は、情報掲示板や交通情報の指示を確認する。



停車時の対処法

- 慌てて車外に出ない。
- ラジオ等で地震情報や交通情報の正確な情報を聴く。
- 車を離れる場合は窓を閉め、ドアをロックせずキーをつけたままにする。（貴重品は必ず持ち出しましょう）



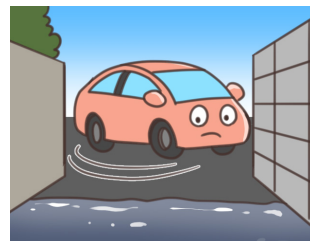
その他の注意

- 家族と連絡をとる場合や避難には車はなるべく使わない。

ゲリラ豪雨などでクルマが冠水したら!?

走行時の対処法

冠水した道路を走る際は、ローギアを使ってエンジンの回転数を落とさないよう心掛けてください。また、落ちついて道路状況を見極め、深い水たまりがある場合は可能な限り迂回してください。



エンジン停止時の対処法

フロア面を超えての冠水では、エンジンの吸気系に水が入っている可能性があります。その状態でエンジンをかけると最悪の場合、壊れてしまう恐れがあります。やむをえない場合は、ギアをニュートラルにして運転者はハンドル・ブレーキ操作を行いながら、車を押して移動してください。（エンジン停止時は、ハンドル・ブレーキの操作が通常よりも困難になるため注意が必要です）

その他の注意

海水に冠水した場合、水が引き乾燥した後においても電気系統がショートし、火災が発生するケースがあります。水が引いたあとに、バッテリー端子を確実に外してください。（ハイブリッド、EV車は、むやみに触らないこと）

ドライバーが地球のためにできること

私たちは日常生活で多量のエネルギーを使用しています。特にクルマからの排出ガスが、地球温暖化の大きな要因の一つとなっています。自動車ユーザーの一人ひとりがクルマが原因で引き起こされる環境問題の被害者であると同時に加害者であることを忘れてはなりません。

駐車時のアイドリングストップ、経済速度での走行などからなる「エコドライブ」の必要性を自覚し、実践することが大切です。



エコドライブ10のススメ

1 自分の燃費を把握しよう

自分の車の燃費を把握することを習慣にしましょう

2 ふんわりアクセル『eスタート』

やさしい発進を心がけましょう

3 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転

交通状況に応じて速度変化の少ない運転を心がけましょう

4 減速時は早めにアクセルを離そう

エンジンブレーキを活用しましょう

5 エアコンの使用は適切に

車内を冷やしすぎないようにしましょう

6 ムダなアイドリングはやめよう

エンジンをかけたらすぐに出発しましょう

7 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう

行き先やルートをあらかじめ確認し、時間に余裕をもって出発しましょう

8 タイヤの空気圧から始める点検・整備

タイヤの空気圧チェックを習慣づけましょう

9 不要な荷物はおろそう

運ぶ必要のない荷物は車からおろしましょう

10 走行の妨げとなる駐車はやめよう

迷惑駐車はやめましょう



ディーゼル黒煙は点検・整備で大きく低減できる

ディーゼル車から排出されるディーゼル黒煙は環境に悪影響を与えます。クルマに負担をかける不経済な走行を控えるとともに、定期的な点検整備を心がけることで、ディーゼル黒煙の低減に大きく貢献できます。

クルマに負担をかける走行はとて不経済なうえ、環境にも悪影響を与えます。定期的な点検整備を心がけ、ディーゼル黒煙を減らしましょう。

違法行為となるクルマの不正改造

不正改造（保安基準不適合）にはさまざまな種類があります。気軽に部品交換や装着をしたら、実は不正改造（危険・処罰・車検が通らない）だったということも…。部品交換や装着の際は不正改造にならないためにも注意が必要です。

不正改造の代表的な事例

1 灯火類の灯火の色を変更

高速走行する自動車の動きを示す制動灯や方向指示器。決められた灯光の色を替えるということは、誤認を与えても危険です。

基準

■ 制動灯／赤 ■ 車幅灯／白または橙* ■ 方向指示器／橙
■ 後退灯／白 ■ 尾灯／赤 ■ 後部反射器／赤

※平成17年12月31日以前に製作された車輛は淡黄も可。

注意

クリアレンズを装着する場合には、着色バルブ等を使用して、規定の灯光の色にする必要があります。また、後部反射器も反射光の光が赤色であることが必要です。



2 運転者席・助手席の窓ガラスへの着色フィルム貼付け

運転者の視界を妨げる濃い色の着色フィルム。運転席および助手席の窓ガラスに貼ると、状況確認が困難になりとても危険です。

基準

着色フィルムを貼り付けた状態での可視光線透過率70%未満のものは不可。

注意

透明なフィルムであっても、経年劣化・損傷やガラスとの組み合わせによって基準外となることがあります。



3 タイヤおよびホイールの車体（フェンダー）外へのはみ出し

高速で回転する突出したタイヤやホイールは、歩行者に危害を及ぼしやすく、車体やブレーキ機構への干渉により事故や故障の原因にもなります。

基準

タイヤなどの回転部分が、基準より車体から突出しないこと。



4 基準外のウイングの取り付け

基準には不適合となるリヤウイングの取り付けは、他の交通の安全を妨げるおそれがあります。

基準

側方への翼形状を有していないこと。確実に取り付けられていること。鋭い突起がないこと。その付近の最外側、最後端とならないこと。など。



全国自動車整備相談所一覧

自動車整備 振興会名	郵便番号	所在地	電話
札幌地方	065-0024	札幌市東区北24条東1-1-12	011-751-1414
函館地方	041-0824	函館市西桔梗町555-36	0138-49-1411
室蘭地方	050-0081	室蘭市日の出町3-4-13	0143-44-5640
帯広地方	080-2459	帯広市西19条北1-8-3	0155-33-3166
釧路地方	084-0906	釧路市鳥取大通6-1-1	0154-51-5216
北見地方	090-0835	北見市光西町167	0157-24-4544
旭川地方	070-0902	旭川市春光町10	0166-51-2157
宮城県	983-0034	仙台市宮城野区扇町4-1-32	022-236-3322
福島県	960-8165	福島市吉倉字吉田5	024-546-3451
岩手県	020-0891	紫波郡矢巾町流通センター南2-8-2	019-637-2882
青森県	030-0843	青森市大字浜田字豊田129-12	017-739-1801
山形県	990-2161	山形市大字漆山字行段1961	023-686-4832
秋田県	010-0962	秋田市八橋大畑2-12-63	018-823-6546
新潟県	950-0961	新潟市中央区東出来島12-6	025-285-2301
長野県	381-8510	長野市西和田1-35-2	026-243-4839
石川県	920-8213	金沢市直江東1-2	076-239-4001
富山県	930-0992	富山市新庄町字馬場24-2	076-425-0882
東京都	151-0071	東京都渋谷区本町4-16-4	03-5365-2311
神奈川県	224-0053	横浜市中区池辺町3660	0120-166-999
埼玉県	331-8555	さいたま市西区中釘2082	048-624-1221
群馬県	371-0007	前橋市上泉町397-1	027-261-0223
千葉県	261-0002	千葉市美浜区新港156	043-241-7256
茨城県	310-0844	水戸市住吉町292-5	029-248-7000
栃木県	321-0169	宇都宮市八千代1-9-10	028-658-1994
山梨県	406-0034	笛吹市石和町唐柏790	055-262-4422
愛知県	466-8558	名古屋市中区昭和区滝子町30-16	052-882-0651
静岡県	422-8001	静岡市駿河区中吉田10-36	054-263-0123
岐阜県	501-6192	岐阜市日置江2648-4	058-279-3721
三重県	514-0003	津市桜橋3-53-15	059-226-5215
福井県	918-8023	福井市西谷1-1401	0776-34-3434
大阪府	559-8511	大阪市住之江区南港東3-5-6	06-6613-1191
京都府	612-8418	京都市伏見区竹田向代町51-5	075-691-6462

定期点検についてのご相談は各都道府県の自動車整備振興会で受け付けています。ぜひお気軽にお問い合わせください。



自動車整備 振興会名	郵便番号	所在地	電話
兵庫県	658-0024	神戸市東灘区魚崎浜町33	078-441-1601
奈良県	639-1037	大和郡山市額田部北町977-6	0743-59-5050
滋賀県	524-0104	守山市木浜町2298-1	077-585-2221
和歌山県	640-8404	和歌山市湊1106	073-422-2466
広島県	733-0036	広島市西区観音新町4-13-13-3	082-231-9201
鳥取県	680-0006	鳥取市丸山町233	0857-23-3271
島根県	690-0024	松江市馬潟町43-4	0852-37-0041
岡山県	701-1133	岡山市北区富吉5301-8	086-259-3500
山口県	753-0821	山口市葵1-5-58	083-924-8123
香川県	761-8023	高松市鬼無町佐藤17-10	087-881-4321
徳島県	771-1156	徳島市応神町応神産業団地1-7	088-641-1904
愛媛県	791-1113	松山市森松町1075-2	089-956-2181
高知県	781-5103	高知市大津乙1793-1	088-866-7300
福岡県	812-0051	福岡市東区箱崎ふ頭6-7-16	092-641-3171
長崎県	851-0103	長崎市中里町1576-2	095-839-7708
大分県	870-0907	大分市大津町3-4-13	097-551-3311
佐賀県	849-0928	佐賀市若楠2-10-10	0952-30-8181
熊本県	862-0901	熊本市東区東町4-14-8	096-369-1441
宮崎県	880-0925	宮崎市大字本郷北方字鶴戸尾2735-7	0985-51-5008
鹿児島県	891-0131	鹿児島市谷山港2-4-16	099-261-8515
沖縄県	901-2134	浦添市字港川512-3	098-877-7065
日整連	106-6117	東京都港区六本木6-10-1 森タワー17F	03-5860-5946

車・バイクの故障・トラブルの受付〈全国共通・年中無休・24時間〉

JAFロードサービス救援コール



0570-00-8139 or



シャープ ハイ サン キュウ

8139

※通話料は有料（固定電話は3分/9.35円、携帯電話は20秒/11円）。

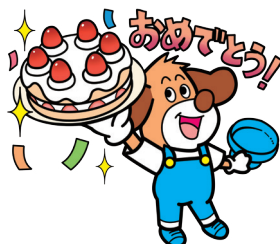
ただし、一部のIP電話等からはご利用になれません。

※携帯電話からおかけの場合、基本使用料金に含まれる無料通信分の対象とはなりません。

※通話料は有料。ただし、固定電話（ダイヤル回線）および一部のIP電話等からはご利用になれません。

てんけんくん LINEスタンプ 発売中!

点検整備促進のマスコットである
『てんけんくん』のLINEスタンプ全2種類!
ぜひ皆さんのコミュニケーションツールとして
可愛がってください!



「LINE STORE」クリエイターズスタンプにて
各 **120円/50コイン** で販売中!

ラインスタンプ てんけんくん

で検索してね!

第1弾



第2弾



発行

一 般 社団法人 日本自動車整備振興会連合会

〒106-6117 東京都港区六本木6-10-1 森タワー17階

電話 (03)3404-6141(代) <https://www.jaspa.or.jp/>

制作

株式会社ブレンネット